



大洲高校 PTA 月報

令和7年6月号

会員寄稿

各学年主任より

校歌斉唱

第1学年主任 森永 友子

入学式でもお話いたしましたように、今年度の1学年の目標「切磋琢磨し居心地のよい集団を作る」を達成する初めの一步と考え、4月に集団宿泊研修を行いました。生徒たちのアンケートでも「仲がぐっと深まった」との感想が多かったです。

この集団宿泊研修の中で、校歌の練習をしました。私が、もし校歌練習を担当するとしたら、「近江聖の跡とめし・・・われらが身こそ嬉しけれ」の「こそ」の結びの語は「嬉しけれ」ですねとやってしまいそうです。しかし、音楽の先生の校歌練習は「校歌」は同窓会などで歌い、懐かしい思い出と共に心に響くのだという話から始まりました。その話を聞きながら、コロナ禍で「校歌静聴」となった時の寂しさを思い出しました。短時間ではありましたが、この練習を通して、生徒たちは大洲高校に入学したことを実感できたはずだと思います。ホールで「校歌斉唱」をする姿に、だんだん大洲高校生らしくなっていることを感じ、私は胸が熱くなりました。

藤樹先生と共に

第2学年主任 大本 将人

2年時の学年目標は、応用編「藤樹先生と共に」にしようと思います。藤樹先生は、人はみな善の心（良知）を持っているのだから、それに従って生きればよいと説いています。しかし、凡人は自分に甘いので、ついつい怠ける方に楽な方にと傾いてしまいます。そこで、常に自分の心の中に藤樹先生を思い描き、こんな時、先生なら何とってくれるだろうと想像しながら生きていくのです。例えば、明日はテストの日。ゲームをしたい。誘惑に負けそう。先生ならきっとこう言う。「今勉強せずしていつするの？今でしょ！（林先生か・・・）」もっと、難しいことにも応用できます。人生に悩んでいる人がいるとします。「人は何のために生まれてきたのでしょうか？よく分からないので、何もする気がしません。」先生ならきっとこう言う。「人は他の人のためになることをするために生まれてくるのです。よって何人も、すべき使命を持っているのです。今は何になれるか分からないでしょうが、そう思って生きていると、きっと立派な人間になれるはずです。立派な人間とは、お金を持っている人やただ勉強ができる人のことではありません。町のゴミを拾える人、親を敬い人々と和して自分の仕事に正直に勤しめる人、人に親切を施し優しくできる人のことをいうのです。」大洲高生は、藤樹先生の教えと共に歩める恵まれた環境にあります。藤樹先生の心を宿した立派な人間を育てたい！そんなことを密かに思いながら書いてみました。

「万里一空」の精神で

第3学年主任 飛田 亜希

昨年度に引き続き、3年学年主任を務めさせていただくこととなりました。どうぞよろしくお願いいたします。生徒たちには4月最初の学年集会で、目標に対して妥協せず、真摯に取り組む覚悟を表す「万里一空」という言葉を贈りました。自身の進路実現や最高学年として学校生活をリードしていくことなど、3年生になった生徒たちには大きな目標がありますが、その達成に向けて、一步一步の努力を惜しまず続けることが大切です。その努力を3年団一丸となって支えていきたいと思っています。

さて、受験生である3年生の時間は、多くの生徒たちにとって、今までの人生で最大の頑張りのところであり、悩みの尽きない時間になると思います。一番のサポーターである保護者の方は、もしかしたら子どもとの関わり方に気を遣ってしまうこともあるかもしれませんが、進路決定は将来や人生について親子で話し合える絶好の機会。子どもとのコミュニケーションを大事にいただけたらと思います。我々も進路決定に対する不安をしっかりと受け止め、正確で適切な情報伝達を心がけていきたいと思っています。